

佐藤秀光さん(56) =音更・酪農

ヘルパー事業に尽力



ヘルパー事業に尽力してきた佐藤さん(左)と孫の星空さん

「ヘルパーは家族経営の酪農家にとって大切な制度。あるとないとは全く違う。病気やけがなどでも、休むことができ、廃業しなくてよくなった」

1959年音更町生まれ。父を早くに亡くし、酪農経営の屋台骨を支えてきた。現在は乳牛約340頭(うち搾乳牛170頭)を飼養する。

酪農ヘルパーは酪農家が休みを取る際、酪農家に代わって搾乳や飼料給与などの作業を行う。「冠婚葬祭に出席

することさえまならなかった」という状況を変えようと、91年に町内の酪農ヘルパー組合の設立に尽力。その後、副組合長、組合長を経て、2003年に有限会社化した際は社長に就任した。

04年に十勝酪農ヘルパー協議会の会長、06年には北海道酪農ヘルパー推進協議会の初代委員長にも就き、道内全体のヘルパー事業推進に取り組んだ。各組織で国などへ補助事業について要望する際、「施設補助などが中心だった中、ヘルパー事業の重要性を理解してもらったのがなかなか難しかった」と振り返る。

佐藤さんは「人に投資して育てていくことが必要」と強調。近年は酪農ヘルパー出身で、道内で新規就農する人も増えてきた。

現在は外国人実習生の待遇改善など、労働力確保に取り組む。長男(33)とともに働き、孫の星空(せら)さん(9)も子牛の哺乳を手伝ってくれるという。「酪農を次世代につなげていきたい」と佐藤さんは前を見詰める。

農業ガイド1027号

2015年9月26日

中札内の鳥倉哲也さん 牛の削蹄 全道一 中標津で道ブロック競技大会



全道の削蹄師の大会で優勝した鳥倉さん

根室管内中標津町で7、8の両日に開かれた北海道ブロック牛削蹄(さくてい)競技大会で、中札内村の鳥倉哲也さん(41)が、枠場保定の部で優勝した。日ごろ磨いた削蹄技術を発揮して優勝できたことに鳥倉さんは「とてもうれしい」と喜んでいる。

同大会は北海道牛削蹄師会と日本装削蹄協会の主催。酪農・畜産

の生産性向上に貢献する削蹄師の技術向上を目的としている。

全道から28人が出場し、枠に牛を固定して行う「枠場保定」と、直接牛の足を持ち上げて行う「単独保定」の2部門で行われた。

効率面などから北海道では一般的となっている枠場保定には11人が出場。実際に牛を削蹄して仕上がりを競う実技と、牛を見て削蹄方針などを判断する筆記試験で出場者が競った。

鳥倉さんは実技面での技術の優秀さなどが評価されて優勝。個人で開業して20年のベテランで、大会には同村内の後輩削蹄師が以前に全国1位になったことに刺激を受けて、昨年から出場。昨年は2位に終わったが、今年は優勝を目指して日ごろの業務の中で磨いた技術を発揮した。

ガールズ農場始めます

2015年12月2日

「私たちらしい農業を」 アグリファッションが法人設立

農業用衣料・雑貨を販売する「アグリファッション」(帯広市大正本町、橋爪理恵代表)が来春、若手農業女性による畑作農場「十勝ガールズ農場」を開設する。1日付で農業法人を設立、年明けにも市内の農地5ヘクタールを借り、耕作を始める予定。農場長を務める澤居恵利さん(25)と高野華瑠菜さん(25)は「私たちらしい農業ができるようチャレンジしたい」と意欲を燃やしている。

1日付で設立したのは農業法人「アグリファッショングループ」で、代表には橋爪代表の夫で酪農家の恒雄さ

ん(43)が就いた。同法人の中心事業として、ガールズ農場に取り組む。来年1月から農業委員会を通じた借地の手続きを進め、来春の営農開始を目指している。

初年度はジャガイモ、カボチャ、スイートコーン、パプリカ、長ネギなどを栽培し、札幌の菓子店や東京の居酒屋チェーンなどでの販売を計画している。今後、JA加入についても条件などを話し合う予定で、販路を確立していく考えだ。

共同農場長の澤居さんは栃木県、高野さんは苫小牧市の出身。ともに酪農学園大(江別市)を卒業し、新得町